

北海道 かわばたの風

3月号

KAKA's FACTORY

発行所：社会福祉法人愛篤福祉会
発行日：令和2年4月10日
住所：北海道夕張郡由仁町川端1002
電話：0123-85-2246

一人ひとりの危機感と命の大切さ

管理者 太田 さとみ

北海道では、新型コロナウイルスが全国に先駆けて感染拡大しました。法人の「命を守る」この趣旨において当事業所は、他の事業所から大げさなのではないのかという批判のなか、三月半ばまで休業しました。その間毎日、利用者さん、職員の体温、体調、行動の把握をして緊急時に備えました。

他とは違う行動を起す時は、批判と称賛の声を聞きます。様々な声を聞き、ただ一つ「命を守る」この理念のもと、行動を起すことに決めています。北海道は「緊急非常事態宣言」解消後、爆発的に感染者が増える事がなく日々、二名の感染者となり、反対に全国の大都市部では、幅広い年齢層

に感染源不明の新型コロナウイルスが広がっているニュースが放送されています。北海道で起きていた事を対岸の火事ではなく、一人一人危機感をもつて生活しなくてはならなかったのだと思います。

今、ニューヨークや欧州で起きている事が、一週間後の東京に起きるかもしれないとの危機感を一人一人が持ち、「自分の命を守る行動をとってください。」
東日本大震災時の余震が激しい時、テレビから聞こえてきた声と重なり、命の大切さを自覚して生活する事が必要です。自分のどこかに常に危機感を持つ事が大切だと思います。



4月の予定

- 1日 新年度始まり
- 4日 工賃支給日
- 14日 避難訓練
- 20日 支援会議
- 24日 工賃会議

福祉とは…幸せに生きること

本当に親が根本で思っていることは、日々を「幸せに暮らすこと」どんな形であれ、それが「福祉」の本当の意味なのです。「幸せな毎日の積み重ねが、この子の幸せな一生なのです」(新聞の投稿文より抜粋)

サービス管理責任者は、利用者さんや保護者さんとの面談を通して、考えていることや困っていることなどを聞き、日々の生活が安心できるように個別支援計画を作成し、職員と協力してサービスを提供していく仕事です。本当に利用者さんが必要なこと(障がい者は自分で自分が必要なことが分からないこともある)を理解し、人として「幸せに生きる」ことに繋がるような支援をしているのか、人間力を試される役割の重さを痛感する日々です。

サービス管理責任者 加藤 安子

風だより

彼岸を過ぎる頃には寒さも和らぎ始まります。その頃になると、夕張川の上空には見事なV字を描いた白鳥や鴨の北帰行が始まります。▼北へ向かう長距離飛行では、先頭の交代や一羽の間がケガや疲れで群れから遅れ始め、複数の白鳥が手助けの為に一緒に地上に降り、回復を待ち他の群れに加わったり、新しい群れを作り元の群れを目指したりするそうです。「仲間が助け合う」私たちにも相通する優しさを感じます。



ひなんくんれん 避難訓練



★^{まいつきこうれい}毎月恒例の^{ひなんくんれん}避難訓練!!

日々の訓練のおかげで安全に且つスムーズに避難することができるようになってきました😊

これからも毎月訓練を行うとともに、今の時期は火災が多いので、特に注意しながら生活します!!



はる とうらい 春！到来！！

北海道でもようやく春を迎えました。今年
は雪も少なく雪解けも早く感じます。

KAKA's FACTORYの利用者さんたちは
厳しい冬を乗り越えることで、より一層、
1年1年着実に強くなっています!!

コロナなんかには負けないゾ!!



カラオケ!!
たの
楽しいなあ!



納品にきました。
いつも、ありがとう
ございます!!



福寿草が咲きました!
福寿草の花言葉は『幸せを招く』
なんだよー

